

第1章 SDGs が拓く対馬の未来



1 誰一人取り残さないー行動理念と将来像ー

▷ Point.....◁

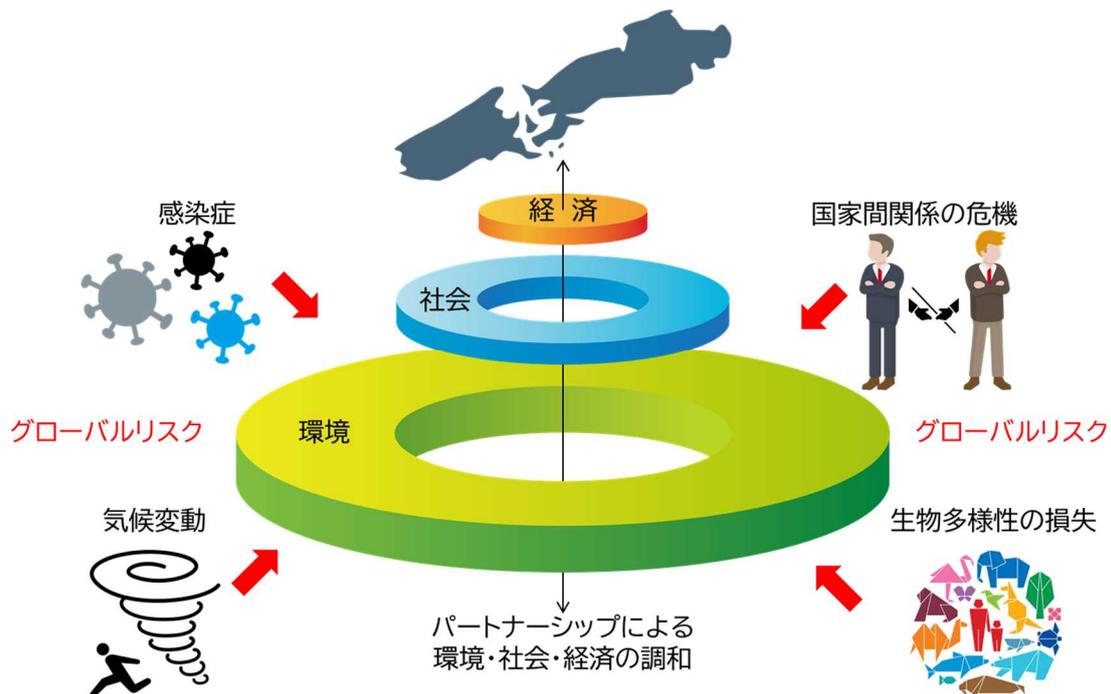
- 将来起こりうるリスクを念頭に、環境・社会・経済の3つの調和が必要不可欠
- 2050年にも安心安全に暮らせる持続可能なしまづくり

(1)SDGs 行動理念

SDGs はよりよい未来を指し示す「羅針盤」のようなものです。対馬市は世界共通の合言葉である SDGs に賛同し、SDGs の視点で持続可能なしまづくりを推進しています。SDGs の4つのキーワードを踏まえ、SDGs 未来都市・対馬市として SDGs の行動理念を以下のように掲げます。

行動理念

SDGs を通じて環境・社会・経済の三側面を調和させ、これから起こりうるリスクを乗り越えながら、誰一人取り残さない持続可能な社会を形成する



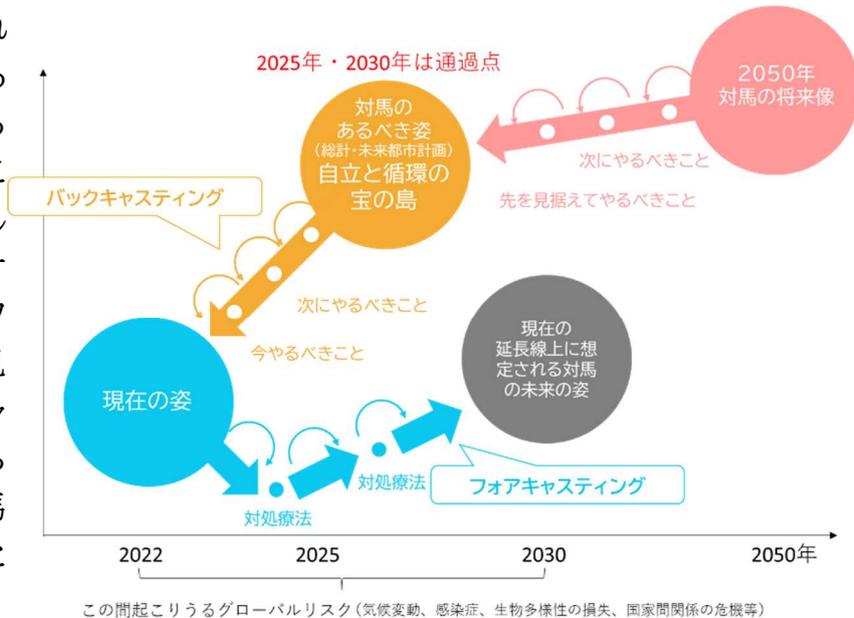
SDGs の4つのキーワード

- ・SDGs の原則「誰一人取り残さない」
- ・持続可能性
- ・環境保全、社会的包摂、経済成長の3つのバランス
- ・グローバルリスク(気候変動、感染症、生物多様性の損失、国家間関係の危機等)

(2)対馬の将来像

2020年8月に策定した「対馬市SDGs未来都市計画」では、経済・社会・環境の調和によって今行われている取り組みの相乗効果を高めるため、2030年の対馬のあるべき姿として、市民の声や地域づくり計画等をもとに描いた第2次対馬市総合計画の2025年の将来像「自立と循環の宝の島 対馬」にSDGsの視点を取り入れています。特に、SDGs推進において注目を集める「サーキュラーエコノミー」(循環経済)をキーワードに、「循環」を強く意識し、2030年の対馬の姿として、「人もヤマネコもウミガメも」安心して共生し、森・里・海が連環する「サーキュラーアイランド対馬」を描いています。

SDGsは世界共通目標として2030年までを達成期限としています。期限まで10年を切る中、その達成のために行動を加速させていくことはもちろん、2030年はこの先も暮らし続けられるための通過点であり、さらに先を見据える必要があります。そこで、2021年度に実施した「SDGs市民アンケート」と「SDGs市民ワークショップ」での意見を集約し、「バックキャスト」の視点から将来(2050年)の対馬のあるべき姿を次のとおり描きます。



将来像

2050年も島に誇りと高い幸福度を感じながら安心安全に暮らせ、持続可能なしまづくりのモデルとして日本・世界の見本となる島

環海性・隔絶性・狭小性という地理的特性によって、島ではヒト・モノ・カネの出入りを明確に捉えることが可能です。対馬は「森・里・海」がコンパクトにまとまり、島内での都市化・過疎化といった日本の縮図的な社会変化や地球規模の環境問題が同時に生じていることから、対馬で諸問題を同時解決しようとするチャレンジは、国内外の島づくり・地域づくりのモデルとして発信することができます。そのことが、対馬の付加価値をさらに高め、環境・社会・経済の調和と安定をもたらします。